

平成22年度 第2回千葉市立博物館協議会議事録

- 1 日時：平成23年2月8日（火） 午後1時30分～午後2時40分
- 2 場所：千葉市中央コミュニティセンター 8階 83会議室
- 3 出席者：(委員) 委員長他4名出席（10名中5名）
委員長 岡本東三
委員 青木繁夫、色部和子
小松美智子、武田昭子
(事務局)
生涯学習振興課 古川和明
加曾利貝塚博物館 青沼道文、村田六郎太、飛田正美、井内孝則
郷土博物館 倉田義広、殿塚昭彦、若菜三郎

4 議事

- (1) 平成22年度博物館事業報告について
ア 加曾利貝塚博物館
イ 郷土博物館
- (2) 平成23年度博物館予算・事業計画（案）について
ア 加曾利貝塚博物館
イ 郷土博物館

5 報告

加曾利南貝塚復原集落建設の経緯と現状について

6 議事・報告の概要

(1) 議事

- ア 平成22年度博物館事業報告について
両博物館における「平成22年度博物館事業報告について」を事業ごとに説明し、委員より意見を受ける。
- イ 平成23年度博物館予算・事業計画（案）について
両博物館における「平成23年度博物館予算・事業計画（案）について」を事業ごとに説明し、委員より意見を受ける。

(2) 報告

加曾利南貝塚復原集落建設の経緯と現状について

加曾利貝塚博物館から、「加曾利南貝塚復原集落建設の経緯と現状について」を報告し、委員より意見を受ける。

7 会議経過

午後1時30分、委員10名中5名着席、池田委員・鷹野委員・西川副委員長・西本委員・福田委員は欠席。

村田加曾利貝塚博物館副館長から、千葉市立博物館協議会運営規則第3条の規定により、この会議が成立していることが告げられ開会した。

生涯学習振興課古川主幹の教育委員会挨拶の後、岡本委員長が挨拶した。

岡本委員長を議長として、議事が進行した。

議事（１）平成２２年度博物館事業報告について

< 説 明 >

飛田・若菜係長 はじめに、加曽利貝塚博物館における入館状況・博物館協議会・維持管理事業・資料収集保管事業・調査研究事業・展示事業・教育普及事業・博物館整備事業について飛田係長より説明し、引き続き、郷土博物館における入館状況・維持管理事業・資料収集保管事業・調査研究事業・展示事業・教育普及事業・市史編さん事業について若菜係長より説明する。

< 質疑応答 >

岡本委員長 事務局より説明がありましたが、ご質問、ご意見はありませんか。

武田委員 いろいろ工夫され活動なさっていることが読み取れる説明と思います。一つお聞きしたいことは、資料の登録はどのような形でされているのか。紙媒体でファイルを使っているのか、従来型のカード式なのかお聞きしたい。

岡本委員長 加曽利貝塚博物館の資料登録についてお願いします。

村田副館長 加曽利貝塚博物館に関しては開館当初はカード化していましたが、このカードはすべての遺物に番号を振っている訳ではなくて、ピックアップしてカード化している経緯があります。

現在行っている作業は、各出土位置がわかるものは各出土位置・グリッドの中で紙媒体の台帳づくりを進めています。博物館では共通のコンピュータがありますので、紙媒体の台帳づくりと並行して、収蔵資料をエクセルデータに整理しています。

資料の３ページに記載していますがこの３月発行予定の紀要に掲載することにしてはいますが、魚骨について約３万点の資料がある中で２，８００点ほど種と部位の同定がすみません。他のものについては種と部位の同定ができません。同定がすみません資料についてはエクセルデータを駆使した中で、このデータにより樋泉岳二さんが紀要の中で報告することになっていますので、皆様方に同一の情報を提供できるように進めています。

青木委員 博物館の入館状況について教えていただきたい。

あと３カ月ありますが２２年度の小・中学生の団体入館者数をみますと、加曽利貝塚博物館は５，４５７人、郷土博物館は５７５人となっています。加曽利貝塚博物館の場合は学校の授業にフィックスされていて、このような入館者の差があるのでしょうか。

飛田係長 加曽利貝塚博物館が突出して小・中学生の団体が多いというご質問ですが、市内の小学校はこれからの４月・５月・６月を中心に６年生が訪問されることが多い。それ以外の月ですが市内の小学校６年生に限らず５年生が事前学習ということで、東京都内・山梨県・埼玉県の学校が訪問されます。小学校に限れば団体と

して訪問されることが多いため、このような状況になっていると思います。

また、ご存じのとおり4月から教育課程の変更がありまして、小学校の教科書にも縄文時代がのるとのこと、加曽利貝塚にも本年度教科書会社から写真の借用等が数多くきておりますし、副読本用に資料の貸し出し・写真借用がきております。このことで、4月になり教科書を採用される地域によりましてはさらに今後も、小学校という団体の単位で増えてくるものと予想しております。

このような事情で当博物館は小学校の団体数が多いということです。

青木委員 ということは、学校教育が大きな比重を占めているということですね。加曽利貝塚博物館は教科書に掲載されていますか。

飛田係長 現在、教科書は弥生時代から始まっています。縄文時代は副読本であれば掲載されています。

4月からは掲載されるということなので、20年くらい前だと思いますが、この時代に戻って加曽利貝塚を扱う教科書が何社かあるということです。

岡本委員長 郷土博物館の団体は、市内が多いでしょうか。

若菜係長 数は少ないですが市内の学校が団体の訪問されています。

これまで加曽利貝塚博物館のように「貝塚」というインパクトのある展示がありませんでしたが、今年度は4階に「近現代の千葉」の体験コーナーで当時の生活がわかる展示を設けました。このコーナーでは近代の生活資料を実際に触って体験できるようになっていますので、数は少ないですが、見学された方には好評を得ています。

今後もっと、紹介していきたいと考えています。

岡本委員長 サイトミュージアムや歴史博物館と郷土博物館の展示が違うことにより、団体が少ないということですね。郷土博物館は原始から取り扱っていますので全体として入館者が倍ありますが、何らかの対策を講じて入館者をより一層増やす努力していただきたい。

小松委員 郷土博物館では、いろいろな講演会、講座を市民会館・郷土博物館等で開催していますが、この募集はどのように行っていますか。

若菜係長 募集については、市政日より・ポスター・チラシ・ホームページで行っています。応募は年齢層が高いので、講座の周知はホームページの掲載より紙媒体の市政日よりが一番効果的です。

小松委員 郷土博物館では、お花見の時期に郷土博物館を見学される方はいますか。

岡本委員長 桜の名所になっていますね。

若菜係長 多くの方が見学されます。

岡本委員長 市史編さん事業で市史編さん会議が条例化されたとのことですが、いま一度説明をお願いします。条例化によってメリットはありますか。

若菜係長 今までも要綱で市史編さん会議が決められていましたが、条例は法律の一部で、市議会の承認により制度的に明確になり、より市民に理解が得られるようになったことです。

岡本委員長 市史編さん事業はいつまで続くのですか。

倉田館長 市史編さん事業は特に期限を設けていません。古代から近世まで行っていますが、近現代が残っています。これをいつまでに行うかが課題です。もう一つは過去の昭和40年代に発刊した市史通史編も古くなってきており、これらのものの取り扱いをどうするかです。これらの問題等により、市史編さん事業をいつまで行うか決まっています。

岡本委員長 県史は財政状況が悪くなり打ち切られていますが、そのようなことに市史編さん事業はなっていないですね。

倉田館長 県史は基本的なスケジュールを決め最後は県の史料研究財団に委託して行われました。県史とは状況は違い、市史は市の直営で着実に進めさせていただいています。

岡本委員長 古い原始古代編については、もう一回作り直すこともあり得るのですか。

倉田館長 できればそのような方向であればと考えます。

色部委員 加曽利貝塚博物館への質問です。私小学校に勤務しており、教育現場からの意見です。資料の5ページ教育普及事業に大変興味があります。総合的な学習の時間への対応についてはこの出前授業は現場としてありがたいと感じるところです。出前授業は体験学習が主なのでしょうか。といいますのは、この事例ですと桜木小学校ですが、この小学校は地理的にいいますとお隣の小学校ですので出前授業の後、博物館で体験学習をしていただくとのこと。大変桜木小学校はめぐまれていて、うらやましい限りです。このような出前授業だけでも可能なのでしょうか。博物館に行けない学校について出前授業をお願いしたい。

飛田係長 要望をいただいて、行事等の日程調整をした時に前出授業が可能であればいたします。体験をしたい、話を伺いたいなど内容の打ち合わせをさせていただいて学校で持っている時間帯で前出授業をいたします。

また、博物館の前出授業と同じようなことを埋蔵文化財センターでも行っています。博物館、埋蔵文化財調査センターの施設でできること、できないことを調整して前出授業をいたします。勾玉づくりは埋文センターにお願いします。実際に土器に触りたい場合、縄文だけでなく弥生、古墳であったり、奈良、平安の土器も触りたいということであれば博物館ではできないので、貸出キットが埋文セ

ンターにあるのでそちらで出前授業をお願いいたします。出前授業を要望する学校がどのような内容を求めているかについて調整させていただいて、出前授業をさせていただきたいと考えます。

色部委員 さきほどの話題の中で、縄文が一時的に教科書から本当に抜けましたが、今度復活しました。歴史を学ぶ意義を今の子どもたちにきちんと考えさせたいという思いがあります。総合的な学習の時間の時数が減ります。このことは外国語が入ってきたりなど指導要領の考え方からです。基本的には歴史が出発点でさらにそこから深めたい時に、総合とドッキングした授業、デザイン化していくこともできますので、今のお話をできれば校長会等で広めていきたいと思います。

岡本委員長 よろしく申し上げます。出前授業を断ることは絶対はない、どんな要望にも応じますとのことです。

色部委員 子どもたちにとってすべてが環境なので、たくさんの人といろいろなことに関わり、たくさんの人から学ぶと同時に、情報過多の社会においては、やっぱり本物に触れさせていきたい。このような時間が少ない中でも何が大事か見極めていけないといけないと感じております。

岡本委員長 貴重なご意見ありがとうございます。ご意見は、これからの博物館事業、運営に参考にさせていただきます。
それでは、次の議題に移らせていただきます。

議事（２）平成２３年度博物館予算・事業計画（案）について

< 説 明 >

飛田・若菜係長 はじめに、加曽利貝塚博物館における博物館協議会・維持管理事業・資料収集保管事業・調査研究事業・展示事業・教育普及事業・博物館整備事業について飛田係長より説明し、引き続き、郷土博物館における維持管理事業・資料収集保管事業・調査研究事業・展示事業・教育普及事業・市史編さん事業について若菜係長より説明する。

< 質疑応答 >

岡本委員長 事務局より説明がありましたが、ご意見、ご質問をお願いします。

青木委員 予算のことはまだ、議会で承認されていないので発表できないと思いますが、原案を提出されていると思いますので、概算ではプラス傾向なのかマイナス傾向なのか、このことについて教えていただけませんか。

倉田館長 郷土博物館は、若干のマイナス傾向です。

青沼館長 加曽利貝塚博物館は、若干のプラス傾向であることを信じています。

岡本委員長 展示事業のゼロはどのような理由だったのでしょうか。

飛田係長 これは財政状況が厳しくなってきた、予算を削減していく中で持っていた原資がほとんどなくなってしまいましたので、やむなく展示事業の企画展にかかる予算を削減しました。企画展は博物館費のなかで創意工夫をして行ってまいりました。

岡本委員長 この展示事業予算を復活していこうということですね。博物館事業の中で展示活動は根幹をなすもので、市に理解していただくような形にしないと、ますますじり貧になってしまいます。是非とも何とか展望のあるようにしていたかないといけないと思います。と同時に事業内容も例年通りの事業しかできない。博物館の中で自己努力をお願いしたい。

青木委員 見てみますと予算が少ないから埋蔵文化財調査センターにある資料を借用したりして、博物館では努力をしているようです。やはり、展示事業は博物館の目玉ですので、委員長も話しているとおりの努力をしていただけたらと思います。

岡本委員長 これは博物館の問題ではなく、市の姿勢の問題に関わってくる重要なことだと思います。主幹も出席されておりますので、その点ご理解いただきたいと思ます。予算部局に働きかけをお願いします。

古川主幹 平成24年が厳しいピークではないかと言われております。ただ、それから先好転する確たることもございませんので、厳しい予算は続く可能性もございます。財政当局の責任にはいけないということが我々の基本姿勢ですが、市としてはこのことをしないと市民の生活、生命、身体、財産に危険を及ぼす事業を優先されております。両博物館でいろいろと資料を作って要求し、この結果ある程度認められているものもあるので良かったと思います。若干経常的なものは削られることは今の段階で我慢の時代と言わざるを得ません。我慢の時代がいつまで続くかはわかりませんが、条件は厳しいと認識しております。

岡本委員長 私が危惧していることは、予算が減ってきて両博物館も美術館のように指定管理者にしろという意見が必ず出てくると思います。その時にどのように対応できるかが踏ん張りどころです。このような財政事情の中で文化的事業をどうやって運営していくか今また先送りしている訳で、博物館協議会でありながら、美術館については違う場所で協議している状況になっている。総合的な方針を作っていくと、加曽利、郷土博物館だけが残るわけにはいかない。将来的なもので今すぐということにはないとしても、そのようになっていくご時世ですから、中で頑張れることは頑張っていたきたい。

議事（2）については以上でよろしいですか。

それでは、報告に移らせていただきます。

報告 加曾利南貝塚復原集落建設の経緯と現状について

< 説 明 >

飛田係長 加曾利貝塚博物館から「加曾利南貝塚復原集落建設の経緯と現状について」を飛田係長より説明する。

< 質疑応答 >

岡本委員長 事務局より加曾利南貝塚復原集落の方向性について説明がありましたが、ご意見をお願いします。予算でみましたら、いくら位ですか。

青沼館長 1棟1,000万円が目安です。

岡本委員長 1,000万円かかるのですか。

青木委員 かかります。登呂遺跡で1,200万円位の経費と聞いております。普通の家1軒建てるより高くかかります。

岡本委員長 それは大変ですね。普及活動等重要な役割を果たす訳ですので23年度は1棟を復原した後、未建設、大破している住居を復原していくのですか。

青沼館長 これを計画したときは縄文時代中期加曾利EⅡ式の時期にある竪穴住居すべてを復原するかたちで一つの村を形成させたわけですが、遠景写真、空撮にしても非常にいい風景、いい環境で縄文時代の生活痕跡をよく示すものと思われましたが、やはりリスクがおおございまして、加曾利貝塚の場合は広域避難所、国指定史跡であることで外側に柵ができない、24時間オープンになっています。このことから、今まで竪穴住居が3度焼失しております。焼失と老朽化の繰り返しで定期的にローテーションが組める形、それから安全上やはり常に全部建っている状況が果たしているのか悪いものかどうか、議論の最中でございます。これまで、学習面で1棟はフル活用していますので、もう1棟、復原し維持できるのではと考えます。さらに増やせればいいと思います。そして、これに対するリスク管理をしていかなければなりません。そのところを今後、どのように考えるか詰めていきたいと考えております。

岡本委員長 1回作ったら、再び保存整備事業として申請できないのですか。

青沼館長 それはできると思います。

岡本委員長 そのような方向性はありますか。

青沼館長 今、そのような形で進める方向で考えております。

岡本委員長 そのようにしないと復原できないですね。竪穴住居は永遠に持つものではない。

長期的なサイクルの中で修繕、修理について計画性を持ってやっていかないといけません。堅穴住居を作ったのに燃やされてしまうことが一番困りますね。

青木委員 これは難しいですね。先ほど館長の説明のように、縄文集落として歴史的復原するか、または完全に体験学習の場として復原するか、体験学習の場として復原するならば展示、展示という言葉は悪いですが、展示を優先的に考えて復原住居を整備する。そうすると復原住居を作ってきた学問的背景が潰されます。そのあたりを十分検討しなければいけない。

岡本委員長 そうですね。学習の場なのか、史跡としての復原の場なのかということの方針を決めておかないとどっちつかずになり、得体の知れないものができてしまう。

青木委員 難しいですね。

岡本委員長 現実的に難しい。

青沼館長 そのようなところも私ども考えております。やはり、博物館の中でも統一的な見解はまだ打ち出せない状況で本日、先生方にいろいろご意見出させていただきましたことすごく参考になると思います。今後、協議会に議案等を出していきたいと考えます。

武田委員 建設してどのくらい持つものですか

青沼館長 20年は持たないですね。萱が薄くなったら萱を補充したり、毎日風通しから火炊きなどしていれば、そのくらい持つと思います。建ててから5、6年から子どもが屋根にのるようになったり、カラスが萱を抜いたりして、8棟あると維持管理が大変です。放置すると10年もするとボロボロになってしまうので、日常の維持管理を行って現在、20年ぐらい経過していますが、見る影もありません。

岡本委員長 内部でも議論されていると思いますが、一定の方針のもとにいかないと、同じようなことを繰り返します。よろしくお願いします。

青沼館長 ありがとうございます。

<議長から他の意見を求めたが、他に意見がなく質疑は終了。>

倉田館長 本日、委員の先生方には貴重なご意見を出していただきありがとうございます。ご指摘のありましたことをくみながら博物館運営に生かすとともに博物館事業も充実させていきますので、今後ご協力のほどお願いします。

<村田副館長の閉会のことばで会議終了>